

第2回市民自治推進委員会議事概要

1 日 時 令和4年8月5日（金） 10:00～11:30

2 会 場 鳥取市役所本庁舎 6階 第6会議室

3 出席者

(1) 委 員 中川委員長、鈴木委員、神部委員、佐々木委員、佐藤委員、下澤委員、倉持委員、椿委員、松本委員、谷口委員（順不同）10名出席

(2) 鳥取市 （協働推進課）北村課長、宮谷課長補佐、大塚主事
（生涯学習・スポーツ課）川上係長

4 議 事

(1) 報告事項

①市民まちづくり提案事業助成金（自主事業部門）の審査結果について【資料1】
（事務局）

【資料1説明】

（委員）

審査して感じたことは、いろいろな事業が提案されたが、SDGs やウィズコロナといったコンセプトで各事業が展開されていないという印象がある。コロナ禍において、どのようにイベントなどを行っていくかが重要なので、募集要項にもウィズコロナへの対応などを記載して提案を集めたらどうだろうかと感じた。

（委員長）

コロナ禍は浮き沈みがあるが、そのような問いかけをしておくことも大事なかなと思う。

②参画と協働のまちづくりフォーラム（啓発事業）について【資料2】

（事務局）

【資料2説明】

（委員）

社会福祉協議会でも地域共生社会の実現を目指しており、さまざまな地域の皆さんと事業を進めている。今までの活動などを踏まえながら、地域共生社会のために何を

していかないといけないのかを考える中で、その基調となることを意識づけるために研修会を企画している。

皆さんに一足飛びに地域共生社会と言っても難しい面があるので、まずはできることから、そして、何ができるかということを考えていただく一場面になったらと思っている。

(委員)

啓発事業を市民の皆さんに PR する場は他にないのか。今後、公民館がどういった形で活用されていくのかを含めて、市民にしっかり情報提供してほしい。ぴよんぴよんネットの放送は見る人が限られており、一般の人はあまり見ていない。そうした時にどういう形でそれを皆さんに知らしめていくかが大事だと思う。

(事務局)

二年前の啓発事業でも放送内容を録画した DVD を作成した。おっしゃられるようにぴよんぴよんでは見る人が限られているということもあるが、一方で、会場に人を集めたとしても、来られる方はかなり限られるのかなと思う。啓発事業から二年経つが、今年度も各地区からは勉強のために DVD を貸してほしいという希望があり貸し出している。

地域によっては、今この情報が欲しいとか来年欲しいとか、スピード感が違うので、そういった意味では DVD に残して、その地区が必要な時に貸し出すことができ、活用できるこの形が良かったと思うので、今回も同様にしていきたいと考えている。

(2) 協議事項

①地区公民館の「まちづくりセンター(仮称)化」に向けた検討について【資料3】

(事務局)

【資料3説明】

(委員)

今までに委員会や審議会などで意見を出され、まとめてこられたようだが、方向性としては良いと思う。

市民にとって教育委員会から市長部局への移管については関係ない。たくさんの人に来ていただいて、公民館が使いやすくなれば良いので、そういう方向に持って行くことが大事だと思う。

一方で市街地と新市域の公民館活動が異なっており、地域の特色を持った公民館づくりをしていくということで、一律的に公民館を右に倣えで、進めていかれるのはいかがなものかと思う。

(委員長)

ご指摘いただいたことについては、議論を始めた頃から出ておりました、地域によって実情が違うため、やれることは増やしますよ、ただ、全部やれということではなく、どこまでするかは各地域で議論していただく段取りになるかなと思う。

(委員)

利用対象の窓口を広げて、地域特有のまちづくりセンターをつくっていけばよいと思う。また、公民館職員へのアンケートについて、移管することや対象範囲を拡大することへの反対意見がいくつか出ていて気になる。たとえば、地域住民の利用頻度が高く稼働率が高い地域は広げる必要がないとか。運用がうまくいっているのに他のところから入って来られたりすると、いろいろトラブルが起きるのではないかというような心配をされる地区もあると思う。反対意見や心配を一つずつ無くしていけば、皆さんが納得されると思うので、この反対意見などを重視していただきたい。

(事務局)

地域の自立を助けていくというのが公民館の大きな目的でもありますので、地域自体が地域で動いていけばそれはそれでいいことだと思う。公民館職員も地域のためを思って勤務しているが、地域からのいろんな仕事を抱え忙しいところもある。地域のために意識を高めながら公民館がどうすれば使いやすくなるか一緒に考えていきたい。

(委員長)

下澤さんからいただいている資料について、お話いただければ。

(委員)

地区公民館の未来像を描いているが、一部の人の利用ではなく皆さんが利用できる公民館にするために、方針を考える前にどんな公民館をつくりたいかについて一番に考えるべきだと思う。所管の移管や法律を外すなどの問題が出てくると思うが、所管の移管や利用制限の緩和、利用の許可制などは後から考えることだと思う。

(委員長)

地域ごとに差があるので全部に当てはまらないが、地域でも何をしていくか話し合うことが大切だと思う。また、公民館によっては、新しいことに時間を費やせない職員がおられるので、この体制になっていく時に業務量の余白を設けてあげないと手が回らない。

(委員)

このような話をするとき地域ニーズが見えないので、どうしても話があちこち行ってしまふ。要は、利用側の利用申請が多くて処理できない、機能を拡大しても受け入れられないという公民館もあれば、もともと利用が少なくて空いている時間が多い公民館と一緒に考えることがよくない。そのような中で、全部受け入れられるようにしておいて、その中から取捨選択すればよいという話があったが、それ自体がなかなか難しいのでは。その前に、利用率が高い公民館が抱えている問題はこうだとか、実態と併せて示せる形にしていくような丁寧さがあると感じた。

(委員)

まずは、まちづくりをどうしたいかを先に考えていく必要がある。私の地区では、福祉や防災、地域の活性化に向け、計画を変えて進めようとしている。また、地域の枠を超えた合同事業の展開を図っていきたいが、社会教育法の関係で営利事業ができないことがネックになっている。

前回、提案があったように、社会教育法を適用させるのではなく、地方自治法を適用させると地域でもっと幅広い活動ができるという話があり、これはすごくいいことであり早くしてほしい。

(委員長)

スピーディにしたいところもあるし、時間をかけないと勘違いされる部分が出て、そもそも進めないといったこともあるので、バランスや手順を考えていかないといけない。

(委員)

61 地区もあれば人と同じように特性も違うので、全部一律にやっていけば大丈夫というようなことはないと思う。行政が考えたプログラムだけを公民館を拠点にして実施して、住民さんはお客さんですよというような流れではなく、地域を巻き込みながら、地域が必要な企画を住民さんで考えて実行まで関わってもらいと、職員の負担も減ると思う。

地域によって違いがあってもいいと思うし、優先すべき取り組みは地域によってむしろ違うべきだと思うので、地域で協力してもらえ人を探しながら取り組んでいくことが大切だと感じている。

(委員)

関心ない人もいるし、こういう活動をすれば公民館に関心を持ちますよとかいろん

な意見が集まれば、まちづくりに参加する住民も増えてくるので、地域の声を聴くことが大事だと思う。

(委員)

今のご意見は大変重要だが、順番を間違えることがよくある。よく間違えるのは何かというと、例えば、利用率が低い問題を考える際、これが何で問題なのかということからスタートしないといけない。利用率が低くて問題がなければ、多くの人に利用していただく必要はない。利用率が低いことが問題だと分かったら、次は、使っているか使っていないかの実態を把握することが大切で。しかし使っていない人にどうやったら使いたいですかって聞くのは、実はあまりいい質問ではない。なぜかということ、使っていない人って、公民館がこうであったら使いたと思うけど、こうなったらという姿は人それぞれ違って、実際に公民館がそのような場を用意したとしても行くかといったら行かない。そのため、まずは本当に困っている人や本当に使ってほしいのに使えていない人はどういう人なのかの実態を把握することが大切だと思う。

(委員)

各公民館が地域の現状把握し、何が求められているのかを踏まえ、活かしていく。公民館職員には地域コーディネーターとして動いてもらっているが、もっと前面に出てもらいたい。まちづくりの中にもさらに入ってもらい、これはできますよ、これはできない、という役割分担を進めていきたい。

(委員長)

地域をどうするか議論を差し置いたままで、具体的方策を考えると方向性がズレる可能性がある。また、できることは早めにする部分と、丁寧にするべき部分があるので、どのような順序で進めていくかが大事だと思う。本日いただいたご意見を俯瞰して整理していただきたい。

(3) その他

次回の日程説明

(委員長)

次回の日程について、事務局からお願いしたい。

(事務局)

今回は、10月頃を予定している。市民活動表彰関係等を報告させていただきたい。